

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1701	学校名	小針小学校	校長名	荻野 真美	作成者名	荻野 真美
学校教育推進サポート担当者名			大澤 一樹・田村 健志・渡部 慎			電 話	025-265-3231

1 実践のテーマ

心理的安全性を高める基盤を強化することによる、「誰もが明日もまた来なくなる学校」づくり

2 テーマ設定の理由

当校は、子どもたちの「今の幸せ」と「未来の幸せ」を保護者・地域の方と共に創ることを基本理念として、「明日もまた来なくなる学校」を目指し、教育活動を進めている。

今後は、不登校・不登校傾向の児童、集団への適応が難しい児童を含め、「誰もが明日もまた来なくなる学校」を目指したい。それを実現するためには、児童が安心して学べる環境を整備し、心理的安全性を高める基盤を強化することが必要である。

現在行っている「スタート・カリキュラム小針プラン」や「ゆるやかな教科担任制」、準備を進めている発達通級指導教室やスペシャルサポートルーム（SSR）の開設等の各取組を確実に実施すると共に、それぞれの取組を関連付けながら総合的に推進することを通して、児童が安心して学び、「誰もが明日もまた来なくなる学校」を実現したいと考え、本テーマを設定した。

3 実践内容

(1) 各取組の確実な実施

① スペシャルサポートルーム（SSR）の開設と充実

不登校・不登校傾向の児童や集団への適応が難しい児童の学びの場として開設する。穏やかな気持ちで学びを深められる環境を整え、専属のスタッフによる指導・支援を行う。併せて、区内のSSR設置校と情報交換を行うことを通して、取組の充実を図る。

② 「スタート・カリキュラム小針プラン」の実践と改善

「スタート・カリキュラム小針プラン」は、確かな理念に基づいた計画であり、市内外から資料提供の依頼が多く寄せられている。児童の実態や国の動向に合わせて改善が必要となっているため、プランに基づく授業を公開し、近隣園や小学校の担当者と協議したり、共に検討したりしながら「スタート・カリキュラム小針プラン～改訂版～」を作成する。

③ 「ゆるやかな教科担任制」から「ダイナミックな教科担任制」への発展

全学年で教科担任制を実施しており、複数の教員が児童や学級の様子を見取り、連携して対応することで、児童が安心して学べる状況につながっている。今後は、担任相互の授業交換の拡充、学年部での授業交換等に取り組む。

※ 加配教員が、各取組の担当者と連携し、各取組の確実な実施と事業の総合的な推進を行う。

(2) 誰もが安心して学べる環境の整備

不登校・不登校傾向の児童、集団への適応が難しい児童が穏やかな気持ちで学びを深め、「温かく迎えてもらった」「学校に来てよかった」と思える環境づくりを行う。一つの教室に三つの機能をもたせ、児童の実態やその時の状況に合った活用が可能となるよう整備する。

① スタディ・スペース：人とのかかわりや音が気になる児童も落ち着いて学習に取り組めるよう個室を設え、モニターを活用した授業の視聴や個別学習を行う。

② リラクゼーション・スペース：タイルカーペット等を敷き、ソファやローテーブルを設え、児童が読書をしたり、教員やスタッフと話をしたりしながら気持ちの安定を図る。

③ コミュニケーション・スペース：ミーティング用円卓や作業机、モニターを備え、学級の友達と共に学習したり、話をしたりしながら絆を深める。

放課後等児童がいない時間帯は、教職員が研修、打合せや作業等で活用する。

4 実践計画

実施時期	実施内容 (研修会、先進校視察、授業公開 等)
令和7年4月	「スタート・カリキュラム小針プラン」実践開始 ダイナミックな教科担任制開始 UDの視点を取り入れた教室環境整備開始 校区内各園に案内をし、授業参観を実施
7月	幼保こ小合同研修会で架け橋カリキュラムを検討
8月	校区内各園と架け橋カリキュラムを検討
10月	西区幼稚園・保育園・こども園・小学校連携研修会で協議及び情報交換
12月	校区内各園と架け橋カリキュラムを検討
令和8年2月	西区小学校長会で成果発表

※ 各取組については、年間を通じて、進捗状況の確認及び修正を行う。

5 成果

(1) 事業全体の成果

保護者アンケートでは、心理的安定に係る項目について、高い評価を得ることができた。サポート事業の指定を受けて実践を行ったことにより、当校が目指す「誰もが明日もまた来たくなる学校」の基盤となる心理的安定の取組の基礎を固めることができたことが大きな成果であった。

質問項目	肯定的評価 (下段：令和6年度)	うちA評価 (下段：令和6年度)
お子さんは安心して学校生活を送ることができますか。	98.3% (96.5%)	55.2% (44.6%)
お子さんが安心して学校生活を送れることに、教科担任制は有効に働いていると感じますか。	96.1%	47.4%

(2) 個別の取組の成果

① スペシャルサポートルーム (SSR) の開設と充実

「温かく迎えてもらった」「学校に来てよかった」と思えるSSRをコンセプトに、環境づくりや運営に取り組んだ。また、児童や保護者のニーズを受け止め、開設日を増やすなどの対応を行った結果、児童の心理的安定と保護者の安心感を高めることができたと考える。また、不登校・不登校傾向児童を全校体制で支援する体制を構築することができたことも成果である。

② 「スタート・カリキュラム小針プラン」の実践と改善

「スタート・カリキュラム小針プラン」を基に、児童の実態に合わせて、実施時期や実施方法を工夫して実践を行った。この結果、1年生は例年以上にスムーズに学校生活に溶け込み、不登校や問題行動もなく過ごすことができた。また、校区内の各園に呼びかけ、架け橋カリキュラムの検討を複数回行った結果、職員同士のつながりが強まり、幼児児童について緊密な情報交換を行うことができたことも成果である。

③ 「ゆるやかな教科担任制」から「ダイナミックな教科担任制」への発展

全ての学級で担任相互の交換授業、高学年部での交換授業を行うなど、ダイナミックな教科担任制を実施した。多くの教員が学級に入ることで、児童の様子や学級の雰囲気等の小さな違和感を見逃しにくくなり、教員同士が情報を共有し、チームで対応することができたことにより、児童の心理的安定と学級の安定が図られた。

この他、UDの視点を取り入れた教室環境の整備に取り組み、全ての児童が安心して学べる環境を整えた。